

明徳寺報

2024年12月1日
第600号
発行
住職 秦 信明
長浜市木之本町黒田

継続は力なり

住職 秦 信明

私の生まれた年に第1号が発行されたと以前からお聞きしており、寺報の歴史は私の人生の歩みと共にあったのだと思うと、深い感動が湧いてきます。多くの人の手を借りて今日まで途絶えることなく継続されてきた事実には、先人の篤い思いや願いが伝わってきます。ひと口に600号といつても簡単に成立するものではありません。時代の要請やお寺の状況を考えた時、いかに情報の伝達や門徒さんとの共有が大切かを先取りされた結果ともいえます。本当に素晴らしいことだと感謝しております。

寺報はお寺の情報を発信する以外にも、人と人をつなぐ大切な役割があります。寺報に掲載された記事をきっかけとしてご門徒や有縁の方々との話が広がり、会話が弾んだこともあります。デジタル技術が進み、情報発信手段はホームページやSNSなど多様化が進む中、紙媒体であればこそ、多くの方々が手に取り、気軽に読んでくださる魅力が寺報にはあると思います。

4年前に住職を継承しましたが、兼職の身ということもあってなかなか編集に携わることができません。しかし以前から、編集内容については、第一に見やすいものにということで、写真などを多用することや、パソコンなどをつかった編集技術を応用することなどについては前住職と相談してすすめております。

2017年に立ち上げた明徳寺ホームページとともに、相互に連動しながら、これからも皆様に喜んでもらえるような寺報になるよう努めてまいります。

今まで多くの方のご協力・ご尽力を賜りましたことこころより御礼申し上げます。

明徳寺寺報600号発行を記念して祝辞

責任役員 神田明則

この度、明徳寺寺報600号の発行を迎えたこと、心よりお祝い申し上げます。まず初めに、長年にわたって寺報発行にご尽力してくださった前住職や住職をはじめ全ての方々に心から感謝申し上げます。半世紀近くという時間の中で、寺報は寺の活動や地域の皆様とのつながりを深め、仏教の教えを広める重要な情報源として役割を果たしてきました。この600号という節目は、寺の歴史と伝統を受け継ぎながら、未来へつながる新たな出発点でもあります。これからも継続して皆様の声を反映し共に歩んでゆく為の大切な媒体となることを念じております。

今後とも、寺の活動にご理解とご協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

寺報発行時を振り返って

前住職 秦 信映

1981（昭和 56）年 8 月 28 日に第 1 号が発行されました。今から 43 年前のことです。当時は世話方会がお寺の運営の責任を担い、世話方長（天野久氏）が今の責任役員の役割をしておられました。世話方会で寺報を発行することが決定され、その編集委員に藤田増治氏と東野敏夫氏が選ばれ、年 2 回の発行を目標としてスタートしました。

創刊号発行に当たって。藤田増治氏が投稿されている記事をご紹介します。

このたび、寺報が出されることになり編集のお世話をすることになりました。今年の 2 月、世話方の交代期まで 3 年間お寺のお世話をさせていただきましたが、長いようでもありました。過ぎてみると短いようでもありました。その間お寺のいろいろな行事がありまして、及ばずながら 6 人の世話方は一生懸命、使命達成に努力してきましたが、当時としては寺報を出すことまで手が回らなかつたものです。今回はじめて発刊ということで大きな前進であると喜んでいる次第です。これから多様化する時代に寺と門徒の情報連絡として十分お役に立つほしいと思います。

皆様ご承知の通り、昨年から今年にかけて豪雪で各所に大きな被害が出ましたが、お寺でも何回も豪雪をおして、本堂等の屋根雪落としなど豪雪対策の奉仕作業をさせてもらいましたが、本堂の屋根瓦が一部破損しました。世話方が春より谷口瓦店と度々交渉して補修を速やかにすること努力中と聞いております。庫裡の屋根と本堂の屋根雪で被害を受けた書院のひさしは住職が補修をほぼ完了されました。

例年の通り枯れ木の葉刈りも終わり、お盆も過ぎて、残暑がまだ一段と厳しい今日この頃になると、今年の苦しかった雪のことも忘れるような思い出となりますが、自然の力は恐ろしいもので、何時もできるだけその対策を考えて準備をしておきたいものと思います。

今年 5 月 31 日にお寺の長男「信明」ちゃんが誕生しましたことは、今年 1 番の明るいニュースでした。元気に立派な新発意になってほしいと一同願っています。

最初はガリ版で作業をしておりましたが徐々に印刷機を利用するようになり、いまではコピー機をレンタルし、写真も掲載することができました。皆さんのご意見をお聞きしながら、また、掲載記事などもご協力していただき、月一回の発行に努めてまいりました。これからも皆様とのつながりを深める情報誌として継続していくことを願っております。



敬弔

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

宮部 克子 様 (1組)

令和 6 年 10 月 11 日 命終

行年 82 才

真宗本廟報恩講にお参りして

明徳寺では、去る 11 月 28 日（木）真宗本廟（京都・東本願寺）の報恩講に団体参拝しました。恒例の行事ですが、今年は結願日中に紫雲朋の会会員ら 4 名がお参りしました。

午前 7 時過ぎに前住職の車で木之本を出発し、名神高速道路を経由して、午前 9 時過ぎに本山に到着しました。御影堂はすでに満堂に近い状況でしたが、何とか後ろの方に着席できました。

お勤めの前に、廣瀬惺真宗大谷派講師の祖徳讚嘆のお話があり、その後門首からご挨拶がありました。

28 日の御満座には「坂東曲」（声明）が用いられます。鎌倉時代から南北朝時代、第 3 代覚如上人の頃に勤まつた関東の同行による勤行がはじまりとも伝えられています。念佛と和讃を繰り返し、体を力強く前後左右に動かして勤まるもので、大変ダイナミックな声明であり、今では大谷派のみに伝えられています。2 時間余の法要は厳肅なもので、地面から湧き上がるお勤めやお念佛の声に、宗祖の遺徳を深く偲ばせていただくことができ、お参りできたご縁を皆さんと喜んでおります。

午後からは市内の紅葉の名所を訪ねました。例年より紅葉は遅く、丁度見ごろの時期で、天候にも恵まれ紅葉狩りを楽しみました。岩倉の「実相院」、左京区の「蓮華寺」を訪問しました。帰りは紅葉のきれいな朽木方面を回り、マキノの「メタセコイヤ並木」を眺めながら午後 6 時頃帰宅しました。



日曜学校で「芋パーティー」

11 月 9 日に明徳寺境内で「芋パーティー」を行いました。当日は秋晴れの良い天気で日曜学校の子ども 13 人と保護者 9 人が参加しました。お芋はお寺の裏の畑で収穫したお芋です。日曜学校の子どもたちが掘ったものをひとつひとつ洗ってバーベキューコンロを使って焼き芋を作りました。出来上がったお芋をみんなで食べました。ほくほくして甘くてとても美味しかったです。焼き芋以外にもお母さんたちがサツマイモチップスや大学芋を作ってくださいり子どもたちから歓声が上がりました。

家ではなかなか味わえない秋の味覚を満喫することができた 1 日となりました。ご協力いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。



明徳寺ホームページ <http://myoutokuji.main.jp>